

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.15

2015

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.15

2015



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙

成川遺跡から出土した成川式土器（鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵）

年報 No.15 目次

1	総合研究博物館の組織－ 2015 年度－	福元しげ子	(1)
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2015 年度の企画事業		
	1. 市民講座		
	(1) 第 28 回市民講座 自然科学とメディアをつなぐ～恐竜から人体まで～	本村浩之	(3)
	(2) 第 29 回市民講座 成川式土器から考える古代のかごしま	橋本達也	(4)
	2. 公開講座		
	(1) 第 15 回自然体験ツアー 照葉樹の森の観察会	鈴木英治	(4)
	(2) 第 15 回公開講座 火山はなぜ噴火するのか？－日本列島に暮らすということ－	鹿野和彦	(5)
	3. 第 15 回 特別展 成川式土器ってなんだ？－鹿大キャンパスから出土する土器－	橋本	(5)
	4. その他の活動		
	(1) 企画展 花－眼差しのあいだ 小枝繁昭	本村	(8)
	(2) 特別公開 世界初、徳之島で発見されたアマミノクロウサギ化石	鹿野	(8)
	(3) 特別公開 与謝野鉄幹・与謝野晶子の直筆短歌－旧制鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名録－	橋本	(9)
	(4) 特別公開 琉球列島最古のハブ属の化石	鹿野	(9)
	(5) 第 2 回奄美の生物多様性観察会 初冬の奄美で森の木を見る会	鈴木	(9)
3	常設展示室	上村 文	(10)
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート 5. ボランティア活動		
	6. 常設展示室 展示品目録－ 2015 年度－ (2014 年度からの変更点)		
	7. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	1. 共通教育「博物館へのいざない」	橋本	(12)
	2. 博物館実習	各教員	(13)
	3. 教員免許更新講習	本村・橋本	(13)
	4. インターンシップ	橋本・福元・本村	(14)
5	出版・広報	橋本	(15)
6	ボランティア活動	本村・橋本	(15)
7	鹿児島バーチャル博物館の構築	鹿野	(15)
8	標本管理活動		
	1. 植物標本室	鈴木	(16)
	2. 脊椎動物標本の利用状況	本村	(16)
	3. その他の標本の利用	橋本・福元	(17)
9	2015 年度 専任教員の活動業績	各教員	(18)
10	2015 年度 ポスター		(29)

1 総合研究博物館の組織－2015年度－

館長 鈴木 英治 理学部

研究部

資料研究系 鹿野 和彦 教授 地質学・火山堆積学
橋本 達也 准教授 考古学
福元しげ子 助手 生物学
分析研究系 本村 浩之 教授 魚類分類学
事務補佐員 西元 暢子
事務補佐員(常設展示室) 上村 文
技術補佐員 大西聡子
研究支援者 星野三香
事務局 研究国際部研究協力課研究支援係

運営委員(総合研究博物館専任教員を除く)

法文学部 兼城 糸絵 准教授 教育学部 瀬筒 寛之 講師
理学部 鈴木 英治 教授 医学部 大重 匡 准教授
歯学部 上川 善昭 教授 工学部 鯨坂 徹 教授
農学部 朴 炳宰 准教授 水産学部 寺田 竜太 准教授
共同獣医学部 松元 光春 教授
医歯学総合研究科 後藤哲哉 教授

兼務教員(敬称略)

地球科学分野

松井 智彰:教育学部 (灰斜長石巨晶の鉱物学的研究)
河野 元治:理学部 (鹿児島県に産する鉱物とその結晶科学的性質)
北村 有迅:理学部 (四万十帯および現生付加体の形成過程とプレート境界の動的過程の地質学的研究)
中尾 茂:理学部 (始良カルデラ周辺の地殻変動に関する研究)
仲谷 英夫:理学部 (脊椎動物の進化と古生態)

生物学分野

川西 基博:教育学部 (河畔域における植物群落の動態と河川攪乱との関係に関する研究)
栗和田 隆:教育学部 (動物の行動・生態の進化における進化生態学的研究)
河合 溪:国際島嶼研 (南西諸島の貝類の多様性に関する研究)
大塚 靖:国際島嶼研 (衛生昆虫の日本および東南アジアでの種分化と病原菌との関係の解明)
山本 宗立:国際島嶼研 (アジア・オセアニアにおける唐辛子の民族植物学的研究)
相場慎一郎:理学部 (多雨林の植物多様性)
宮本 旬子:理学部 (野生植物の遺伝的多様性)
上野 大輔:理学部 (海域や陸水域に生息する共生および寄生性甲殻類の分類と生態)
佐藤 正典:理学部 (環形多毛類の分類学的研究)
富山 清升:理学部 (軟体動物の生態学、生物地理学、保全生物学、系統分類学の研究、島嶼の生物相の研究)
一谷 勝之:農学部 (作物の遺伝的多様性)
鶴川 信:農学部 (マレーシアの熱帯雨林における各樹種の生育環境の解明、徳之島の天然林における各樹種の個体群動態の解明)

- 坂巻 祥孝：農学部（鱗翅目昆虫キバガ上科の系統分類学的研究、九州および南西諸島の害虫および天敵節足動物の個体群管理）
- 津田 勝男：農学部（鹿児島県本土および南西諸島における昆虫類微生物の分布と生態）
- 中西 良孝：農学部（在来家畜および再野生化家畜の保護と活用に関する研究）
- 平 瑞樹：農学部（農地保全と農村周辺の景観・生態系保全に関する調査・研究）
- 藤田 志歩：共同獣医（野生霊長類の行動と生態、奄美群島に生息する哺乳類の分布）
- 鈴木 廣志：水産学部（学術標本の調査・収集・整理・分類・保存・管理に関する研究、十脚甲殻類の分類と生態・生活史に関する研究）
- 寺田 竜太：水産学部（熱帯、亜熱帯における海藻類の種多様性と群落維持機構）
- 山本 智子：水産学部（干潟底生生物の群集生態学的研究）

考古学・歴史学・民俗学分野

- 高津 孝：法文学部（薩摩塔及び南西諸島現存礎石の研究）
- 石田 智子：法文学部（弥生時代における土器をはじめとする物質文化動態の社会変化に結びつくプロセスの研究）
- 兼城 糸絵：法文学部（中国南部における人の移動と地域社会の変容に関する研究、災害と民俗文化に関する研究）
- 桑原 季雄：法文学部（グローバリゼーションの島嶼社会への影響および薩南諸島の観光化に関する研究）
- 小林 善仁：法文学部（鹿児島県の地図資料に関する基礎的研究）
- 中路 武志：法文学部（地域映像アーカイブスの構築と活用に関する研究）
- 渡辺 芳郎：法文学部（薩摩焼の考古学的研究）
- 日隈 正守：教育学部（日本中世諸国一宮制の研究）

教育学・理学・学術情報学分野

- 有馬 一成：理学部（植物由来タンパク質分解酵素の構造機能相関、弾性線維エラスチンの機能解析）
- 富安 卓滋：理学部（環境中における水銀の挙動）
- 大西 佳子：医歯学総合研究科（サイエンス・コミュニケーション）
- 升屋 正人：学術情報基盤センター（情報ネットワーク・生命情報学）
- 中武 貞文：産学連携（地域におけるイノベーション創出の「場のデザイン」）

学外協力研究者

- 秋元 和實：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター准教授（微古生物学、海洋環境学、海洋地質学）
- 石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学、熱帯果樹に関する研究）
- 稲田 博：霧島エンジニアリング（株）調査役（河川・砂防及び海岸工学）
- 浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）
- 江口 克之：首都大学東京准教授（東南アジア地域に生息するアリ類の多様性生物学的研究）
- 大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（地質学、古生物学・生物学的研究）
- 大塚 裕之：鹿児島大学名誉教授（層序学、古脊椎動物学）
- 川端(北村) 訓代：鹿児島大学大学院、日本学術振興会特別研究員（地震の発生機構の解明）
- 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
- 坂元 隼雄：(財)鹿児島県環境技術協会理事長、鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
- 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学教授（魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究）
- 鮫島 正道：鹿児島大学農学部客員教授（動物形態学、野生動物保全生態学）
- 土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）
- 塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（海産無脊椎動物の生殖と発生）

西中川 駿：鹿児島県考古学会会長、鹿児島大学名誉教授（動物考古学、動物解剖学）
 福田 晴夫：鹿児島県環境審議会副会長（生物学、昆虫生態学）
 藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授・株式会社鹿児島 TLO 取締役（木材の循環型社会・バイオマス等の活用による再生可能エネルギーの構築）
 堀田 満：鹿児島大学名誉教授（植物系統分類・地理学、熱帯植物、有用・民族植物学の研究）
 丸野 勝敏：（鹿児島県産植物相の調査、絶滅危惧種の調査・データ収集）
 山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究、昆虫と寄主植物の相互関係、地球温暖化が昆虫に及ぼす影響）
 山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（東南アジア産アリ類の分類・生物地理）

専門部会

1. プロジェクト推進部会 委員長：山本 智子（水産）
 松井 智彰（教育）；坂巻 祥孝（農）
 専任教員：鹿野 和彦
2. 企画交流部会 委員長：仲谷 英夫（理学）
 桑原 季雄（法文）；河合 溪（国島）
 専任教員：福元しげ子
3. 出版広報部会 委員長：中西 良孝（農学）
 中尾 茂（理学）；寺田 竜太（水産）
 専任教員：橋本 達也

2 2015 年度の企画事業

1. 市民講座

(1) 第 28 回市民講座 自然科学とメディアをつなぐ～恐竜から人体まで～

5月23日（土）に鹿児島大学郡元キャンパスの総合教育研究棟 102 号室で開催された。本市民講座では、NHK エンタープライズで自然番組の制作をされている、サイエンスライター・番組リサーチャーである坂元志歩氏をお招きし、自然科学を分かりやすく一般に伝える仕事について話をし、頂いた。坂元氏が科学雑誌ニュートンの編集から NHK の多数の科学番組制作まで 10 年以上にわたりメディアを通して自然科学を紹介してきたご自身の経験と紆余曲折を熱く語って下さり、盛況の



坂元 志歩 氏



第 28 回市民講座

うちに講演会が終わった。聴講者は60名であった。

(2) 第29回市民講座 成川式土器から考える古代のかごしま

第15回特別展「成川式土器ってなんだ?—鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器—」の関連行事として、2015年10月24日13:30～16:00に鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟3号館311号室において実施した。

まずは、橋本達也(鹿児島大学総合研究博物館)が「成川式土器ってなんだ?」として、成川式土器の研究史とその概要について解説を行い、続いて福岡市経済観光文化局文化財部の久住猛雄氏にやや専門的な内容を「土器」の中の「成川式」土器—中津野式から辻堂原式にかけて—と題して講演いただいた。聴講者は学内外61名の参加者があり、本講座と展示見学とをあわせた来学者も少なくなく、九州外を含む県外の参加者もあった。



第29回市民講座



久住 猛雄 氏

2. 公開講座

(1) 第15回自然体験ツアー 照葉樹の森の観察会

2015年4月19日に、鹿児島大学教育学部付属の寺山実験教育施設で樹木の観察会を行い18名の参加者があった。植物はその区別点を知っていれば名前を知ることが、そんなに難しくないが、どこを見ればよいかわからない、専門的な図鑑では植物の形態を示す用語がわからない、掲載している種数が多すぎて探しきれないという人が多い。そこで寺山で普通に見られる樹木(57種)、ツル(15種)、シダ(17種)、草本(21種)についての検索表付の図鑑を作成して配布し、それを使いながら植物を観察した。



第15回自然体験ツアー

単葉・複葉、互生・対生といった言葉の意味を最初に解説し、それらによって植物は大まかにグループ化でき、さらに鋸歯や毛の有無によって個別の種までたどり着けることを示した。そして実際にフィールドで自分の目で観察すると、対生の種でも一方の葉が落ちて互生のようにになっている場合や、毛があるといっても肉眼ではよく見えないほどわずかな毛である場合もあることなどを実感してもらい、半日観察をするとかなり正しく同定できるようになった人が多かった。

(2) 第15回公開講座 火山はなぜ噴火するのか？—日本列島に暮らすということ—

2015年6月6日に当該講座を開催した。この講座では、「和食はなぜ美味しい—日本列島の贈りもの」(岩波書店)の著者でもあるマグマ学の泰斗、巽好幸・神戸大学大学院教授を招いて、活発に活動する桜島や新燃岳などを控えて大噴火が気になる地元の方々のために、マグマが発生して噴火するまでのプロセスをたどりながら、なぜ破局的噴火(巨大カルデラ噴火)が起こるのか、破局的噴火が起こる可能性はどのぐらいか、そして想定される災害にどのように向き合えばよいのか、その心構えについて聴いた。



第15回公開講座



巽好幸氏

3. 第15回特別展 成川式土器ってなんだ？—鹿大キャンパスから出土する土器—

2015年9月30日～10月27日まで、鹿児島大学附属中央図書館ギャラリー・アトリウムを会場に第15回特別展を実施した。

鹿児島大学構内遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地であり、掘削を伴うような工事の際には必ず発掘調査が実施されている。その際に出土する資料としてもっとも多くを占めるものは、古墳時代の集落に伴う成川式土器である。そこで、本展示では、鹿児島大学構内遺跡の紹介を行いつつ、成川式土器にスポットを当てることを目論んだ。

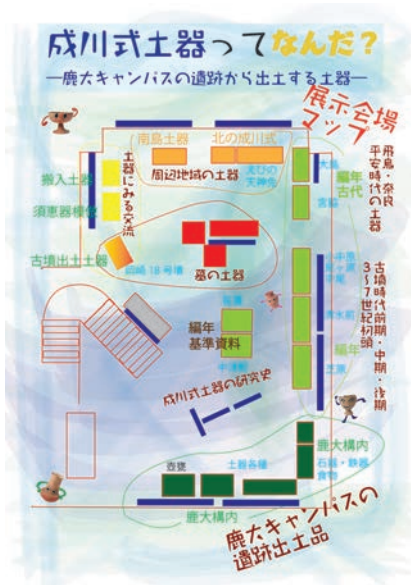
成川式土器は鹿児島及びその周辺にのみ分布する在地特有の土器で、出土量が多く、研究史上では早くから注目されていたにもかかわらず、それを総合的に扱うような企画が組まれたことはなかった。その意味で今回の特別展は成川式土器を総合的に把握し、その重要性を再確認する上で画期的な企画であったと言える。

会期は23日間で、入場者数は582人であった(複数回の見学者、団体見学者は一部カウント外)。会期中ギャラリートークを3度行い、各回10～20名の参加があった。

展示見学は無料で、会場受付は総合研究博物館スタッフおよびボ



ギャラリートークのポスター



展示会場マップ



展示概要パンフの表紙



展示解説表紙

ランティアが行い、展示概要パンフレット（A4・4ページ）と展示会場マップ（A4・1枚）を見学者に配布した。また、希望者には展示解説（A4・102ページ）を無料で配布した。

展示内容はおおむね展示解説にある項目ごとに資料を用いて行った。

展示解説の目次は下記のとおりである。

【展示解説目次】

成川式土器ってなんだ？—鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器— 橋本達也（鹿児島大学総合研究博物館）

成川式土器写真 橋本達也

鹿児島大学構内遺跡郡元団地 芝原遺跡 中津野遺跡 清水前遺跡 吹上小中原遺跡 尾ヶ原遺跡 中尾遺跡 安良遺跡 上苑 A 遺跡 宮脇遺跡 大島遺跡 敷領遺跡 橋牟礼川遺跡 輪之尾遺跡 スセン當貝塚 天神免遺跡 広田遺跡 成川遺跡 神領 10 号墳 成川遺跡（土器） 成川遺跡（遺跡）

1. だれがみつけた？—「成川式」の発見、研究史—

成川式土器の研究の道 橋本達也

2. それっていつ？—成川式土器の時代—

成川式土器の時代 中村直子（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター）

3. どこにある？—成川式土器のひろがり—

南西諸島の土器と成川式土器 新里貴之（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター）

成川式土器の北のひろがり 甲斐康大（延岡市教育委員会文化課）

やってきた土器・出て行った成川式土器 橋本達也

4. どうやってつくった？—成川式土器をつくる—

土と砂—成川式土器を作る素材— 篠藤マリア（ハイデルベルク大学院古代学センター）

須恵器を模倣してつくった成川式土器 橋本達也

5. どのように使うの？—成川式土器を使った人びと—

鹿児島大学構内に眠る遺跡 寒川朋枝（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター）

祭祀と成川式土器 中村直子

墳墓と成川式土器 橋本達也

6. どんな意味がある？—成川式土器をめぐる研究の現在—

「土師器」の中の「成川式」土器—中津野式から辻堂原式にかけて— 久住猛雄（福岡市経済観光文化局文化財部）

成川式土器と東北の弥生土器、土師器 辻 秀人（東北学院大学文学部）

成川式土器と前方後円墳 広瀬和雄（国立歴史民俗博物館名誉教授）
成川式土器と鹿児島県の古墳時代研究 橋本達也

本特別展には、総合研究博物館スタッフ、ボランティア、展示解説執筆者以外に、下記の機関・個人から資料調査・借用、情報提供などの協力があった。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・指宿市教育委員会・えびの市教育委員会・志布志市教育委員会・南さつま市教育委員会・南種子町教育委員会・池畑耕一・松崎大嗣

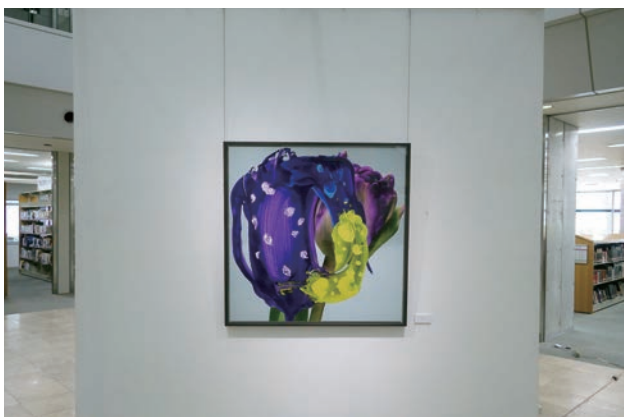


特別展 成川式土器ってなんだ？

4. その他の活動

(1) 企画展 花一眼差しのあいだ 小枝繁昭

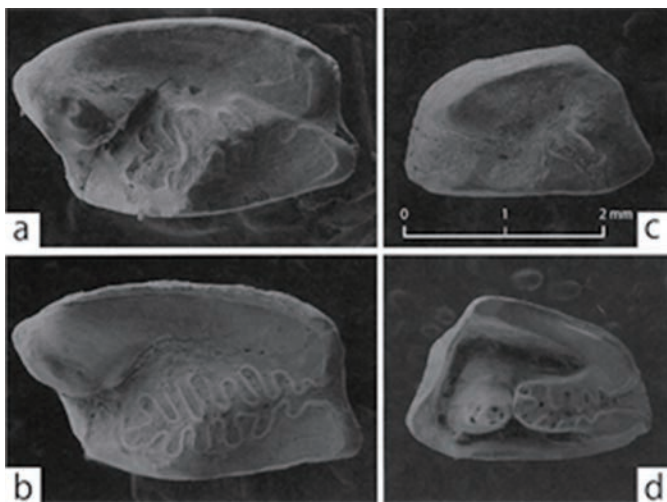
4月10日から30日まで、鹿児島大学中央図書館のギャラリー・アトリウムで、花を中心にペインティングと写真を融合させた作品を制作している小枝繁昭氏の絵画展が開催された。大学における同氏の展示はオクスフォード大学展示会に次ぐ2回目となった。小枝氏の描く多様な花とその色彩美を多くの方が鑑賞された。



企画展 花一眼差しのあいだ 小枝繁昭

(2) 特別公開 世界初、徳之島で発見されたアマミノクロウサギ化石

大塚裕之・鹿児島大学名誉教授が数十年にわたって南西諸島で収集したリュウキュウジカやカメ、ヘビなど、数多くの脊椎動物化石の中から、とくに貴重な標本として、世界で初めて徳之島で発見したアマミノクロウサギの歯の化石を選び、当館の常設展示室において2015年8月6日(木)から10月10日(土)まで期間を限定して公開した。標本は長径2mm前後の上顎右大白歯M1と左小白歯P3の2本の歯だけが、展示期間が長かったこともあって、入館者数は最初の1ヶ月間で例年の倍近くにのぼった。



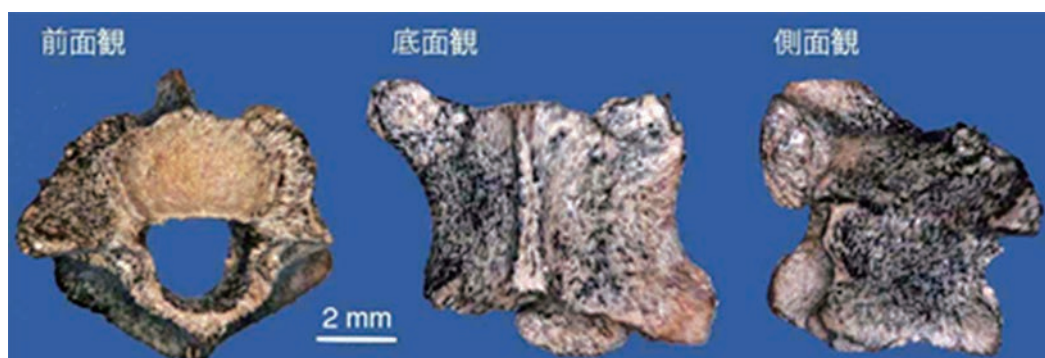
上顎右大白歯 M1 と左小白歯 P3 化石の走査型電子顕微鏡像 (Tomida and Otsuka, 1993)

(3) 特別公開 与謝野鉄幹・与謝野晶子の直筆短歌—旧制鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名録—

2011年に元農学部教員で長く指宿植物試験場に勤めた中山定徳氏のご遺族から鹿児島高等農林学校時代の植物試験場の芳名録を寄贈いただいたが、寄贈当初は虫喰いがおびただしく、まだ生きた虫がついた状態であった。そのため以後、殺虫・防虫を行っていたが、4年を経過して虫害のおそれなくなったことから、2015年11月14日～12月12日まで、常設展示室において初めての公開を行った。今回はとくに注目できる与謝野鉄幹・与謝野晶子の直筆短歌が書き込まれた箇所を選んで展示・解説を行った。期間中は附属図書館において『貴重書公開 旧制鹿児島高等農林学校の底力』が開催されており、それと関連させることも企画意図であった。また、期間中には大学祭があり、その機会に積極的なアピールを行い、常設展示室の集客につなげることを目的とした。

(4) 特別公開 琉球列島最古のハブ属の化石

大塚裕之（鹿児島大学教授、当時）らが沖縄本島の今帰仁村大字呉我山赤木又に分布する地層から発掘した全長 2-10 mm の頸または胴の一部を占める脊椎骨を、当館の常設展示室において、2016年1月27日（水）～4月9日（土）まで期間を限定して公開した。このハブ属の化石は、一緒に産出するアカマダラなどほかのヘビ類や、リュウキュウジカや大型ネズミのケナガネズミの祖先型、リュウキュウヤマガメ、イシカワガエルなどの脊椎動物化石とともに、180万年前より少し古い時代に中国大陸からやってきた証拠となる貴重な標本である。この展示を訪れた方々の多くが、このことを知って、あらためて見入っている様子が印象的であった。



ハブ属 *Protobothrops* sp. 脊椎化石標本（今帰仁村大字呉我山赤木又産）

(5) 第2回奄美の生物多様性観察会 初冬の奄美で森の木を見る会

2015年12月23日に奄美大島の龍郷町にある「奄美自然観察の森」で、島嶼研奄美分室ならびに奄美市教育委員会と共催で、樹木の観察会を行った。博物館からは鈴木と福元が参加した。この観察会のために、秋に奄美の樹木110種について写真を撮り、図鑑を作成してPDF化した。それを博物館等のホームページから参加者各自がダウンロードしてスマートフォンやタブレット端末に入れて持ってきてもらうことにした。観察の森では主な種30種に前もって番号札を付けておき、参加者は図鑑の検索表を使って自分で名前を調べるクイズ形式とした。講師が名前を解説するだけの観察会よりも、自分で調べる形式の方が苦労は多いが、それだけに名前がわかった時には印象に残るようであった。ただ雨が途中から降って、最後の30番までできずに



奄美大島でスマートフォンに入れた図鑑を使いながら、植物の名前調べをする参加者

終わったのが残念であった。

なお植物図鑑は、鹿児島大学博物館のホームページのオンラインフィールドガイド鹿児島からダウンロードできる。

http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/kaum/KFG_main.htm

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2015 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者数	141	235	190	249	324	108	129	327	232	53	107	167	2262
団体	25	50	47	41	59	30	0	0	120	0	39	0	411
一般	116	185	143	208	265	78	129	327	112	53	68	167	1851
開館日数	21	19	21	23	17	20	23	20	18	20	18	23	243

常設展示室 曜日別入館者数 2015 年度

	火		水		木		金		土		日		月		合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計
4月	0	20	25	22	0	22	0	27	0	25	0	0	0	0	25	116	141
5月	50	17	0	34	0	60	0	51	0	23	0	0	0	0	50	185	235
6月	0	20	0	26	0	55	0	29	47	13	0	0	0	0	47	143	190
7月	0	56	22	59	0	57	19	18	0	18	0	0	0	0	41	208	249
8月	18	31	0	72	8	90	14	27	19	45	0	0	0	0	59	265	324
9月	0	9	0	9	0	19	0	11	30	23	0	7	0	0	30	78	108
10月	0	15	0	20	0	48	0	9	0	37	0	0	0	0	0	129	129
11月	0	7	0	14	0	23	0	27	0	82	0	174	0	0	0	327	327
12月	0	28	86	14	0	12	0	32	34	26	0	0	0	0	120	112	232
1月	0	14	0	3	0	15	0	11	0	10	0	0	0	0	0	53	53
2月	39	6	0	21	0	13	0	14	0	14	0	0	0	0	39	68	107
3月	0	44	0	41	0	28	0	41	0	12	0	0	0	1	0	167	167
合計	107	267	133	335	8	442	33	297	130	328	0	181	0	1	411	1851	2262
	374		468		450		330		458		181		1		2262		

今年度の総入館者数は2262名で、昨年度に比べ228名減少している。一般3名、団体225名の減少で、授業・実習での利用のほか、学外からの団体利用が減少した。

2. 利用・活用状況

大学関係では、4月の新入生オリエンテーションをはじめ、理学部・工学部・教育学部および共通教育の授業・実習のほか、教員免許状更新講習、男女共同参画推進センター 学童保育などの利用があった。学外からは、県内外の小・中・高等学校・大学や、地域・NPO 法人が主催する生涯学習講座など、小学生から社会人まで幅広い年代層の団体利用があった。

・大学関係

- ・理学部地球環境科学科 新入生オリエンテーション
- ・工学部機械工学科（1年）フレッシュマンセミナー
- ・教育学部 博物館実習事前見学 ・教員免許状更新講習
- ・男女共同参画推進センター 学童保育「まな viva」

- ・ 共通教育科目「鹿児島探訪」
- ・ 共通教育科目「博物館へのいざない」

・ 学外

- ・ 熊本大学（理学部地球環境科学科）
- ・ 宮崎県立北高等学校
- ・ 福岡県立山門高等学校
- ・ 鹿児島大学附属小学校（6年）施設見学学習
- ・ オンリーワンメソッドアカデミー（小学生）
- ・ 放課後等デイサービス デフキッズ
- ・ NPO 法人きんこう・まちむらネットワーク 宿利原小学校寺子屋塾
- ・ 大崎町教育委員会社会教育講座受講生
- ・ 鹿児島市勤労女性センター友の会
- ・ 鴨池地域まちづくりワークショップ「旧中郡宇村ルネッサンスウォーク」

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース温度（℃）	19.5	21.9	22.8	24.5	25.1	24.9	20.9	19.9	15.2	15.1	14.4	16.0	20.0
1階ケース湿度（%）	72.5	71.3	71.9	69.1	60.1	68.5	67.7	71.6	65.0	66.4	61.9	63.9	67.5
2階ケース温度（℃）	20.1	22.4	23.1	25.1	25.9	25.0	20.7	19.6	14.8	17.8	14.7	16.2	20.4
2階ケース湿度（%）	71.2	67.2	68.7	63.0	58.8	65.7	67.4	71.2	69.8	64.8	60.4	61.8	65.8

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 69名 女 57名 合計 126名

2) 年齢

小学生以下 46名 中学生 2名 高校生 2名 大学生 18名
 上記以外の10代 0名 20歳代 10名 30歳代 8名 40歳代 19名
 50歳代 10名 60歳代 9名 70歳以上 2名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 68名 鹿児島県内 16名 鹿児島県外 25名
 大学関係者(学生・教職員) 17名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 37名 ホームページ 9名 授業・講座等 55名
 ポスター 6名 人にすすめられて 5名 その他 12名 無回答 2名

5) 感想

大変よい 73名 よい 47名 どちらともいえない 5名
 つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 1名

6) 感想・意見・要望等

アンケート126件中122件に自由記述欄の記入があった。内容を見てみると、全般的な感想としては「小さいながら、本物が分かりやすく工夫して展示されていてよかった」「大学にあったものが活用され、歴史が感じられてよい」「解説が詳しくていい。専門用語が少し難しかった」、展示内容については「どの時代のどんな物がどこから出土しているのかまでわかって、大学が遺跡の上に立っていることを実感できた」「温泉の数、金の産出量において、とても恵まれた土地なのだと実感した」、特別公開については「めずらしいアマミノクロウサギの化石が見つかったことに驚いた」、その他に「植物目録が参考になった。県外から来たので、地域の植物や生物・自然史についてまとまった情報が得られてよかった」といった声が寄せられた。意見・要望としては、「場所が分かりにくく、

一般の人が入りにくい」「誘導看板をおいて、もっと博物館の存在感を出した方がいい」「化石や岩石資料が興味深かった。小中学生の自由研究になるようなテーマを教えてください」「昔の機器が興味深かった。現在使用されている物もいずれ使わなくなったときにちゃんと残して置いてほしい」「骨や化石の一部展示は現存種なら全体写真や図を示してほしい」「金のでき方について、もう少し分かりやすい解説がほしい」「閲覧用の出版物を購入できるようにしてほしい」「鹿大ジャーナルを楽しみにしている。ジャーナルの号ごとの特集に関連する展示もあるとよい」「他の博物館などとのコラボ展をしてはどうか」「イスや机を置いたらもっと見学しやすくなると思う」などがあった。

5. ボランティア活動

大学祭期間中の11月15日（特別開館日）に、社会人ボランティア1名に展示室業務補助の協力を得た。職員と交代で、1階カウンター・2階展示室にて受付・案内・監視などをお願いし、100名を超える来館者の方に円滑に見学をしてもらうことができた。

6. 常設展示室 展示品目録－2015年度－（2014年度からの変更点）

展示交換

- ・神領10号墳出土資料（土師器高坏 大・中） 貸出資料返却により展示
- ・特別公開「アマミノクロウサギ化石」アマミノクロウサギ化石・頭骨標本・リュウキュウジカなどの骨片化石・トラバーチン（8月6日～10月10日）
- ・特別公開「与謝野鉄幹・晶子の直筆短歌」旧制鹿児島高等農林学校指宿植物試験場の芳名録（11月14日～12月12日）
- ・諏訪コレクション「南薩地域の縄文時代 石斧」
- ・特別公開「ハブ属の化石」ハブ属脊椎骨化石（1ケース14点）・宮古島天川洞産サキシマハブ類縁種の脊椎骨・現生ハブの骨格標本（沖縄島産）・今帰仁村赤木又からハブ属類縁種とともに産出した貝化石（6点）（1月27日～）

展示終了

- ・神領10号墳出土資料（勾玉2点・管玉4点・石棺石材3点） 芳名録特別公開のため

7. 常設展示室の課題

今年度は新たな試みとして、未公開収蔵資料の「特別公開」が3回実施された（「アマミノクロウサギ化石」・「旧制鹿児島高等農林学校指宿植物試験場の芳名録」・「ハブ属の化石」）。

例年、アンケートの意見・要望でも、おもに学内やリピーターの来館者から展示資料の入れ替えを望む声が多く上がっていたが、「特別公開のポスターを見て来た。何かいつもと違うことをやっているというので興味が湧いた」「期間限定と聞いて見に来た」など、普段は素通りしている学内や通りがかりの来館者を多数呼び込むことができ、いずれの期間とも前年度を上回る入館があった。昨年度に比べ、大幅な減少となった団体利用については、増加を促すべく何らかの策を講じたい。

4 教育活動

1. 共通教育「博物館へのいざない」

総合研究博物館教員で担当する共通教育科目である。この講義では大学博物館の存在を紹介するとともに、その役割や意義について説明し、学習や研究における博物館の活用について理解を深め

ることを目的としている。また、学芸員資格や学芸員の仕事について知る博物館学入門の講義として位置づけている。授業は「鹿児島大学公開授業」としており、学生以外の受講者も手続きを行えば受講できるようになっている。2015年度は79名の受講生があった。

講義内容は下記のとおりである。

- (1) 4/16 橋本達也 博物館とは? -いろいろな博物館-
- (2) 4/23 本村浩之 博物学の起源と動物の進化・分類学
- (3) 5/7 本村 魚類分類学とフィールド調査
- (4) 5/14 本村 鹿児島の魚類多様性
- (5) 5/21 本村 魚類生態学と博物館
- (6) 5/28 鹿野和彦 地球探検の記録：地質学と博物館（1）
- (7) 6/4 鹿野 地球探検の記録：地質学と博物館（2）
- (8) 6/11 鹿野 地球探検の記録：地質学と博物館（3）
- (9) 6/18 鹿野 世界遺産、ジオパークとフィールドミュージアム
- (10) 6/25 橋本達也 文化財保護と博物館
- (11) 7/2 橋本 埋蔵文化財と考古学
- (12) 7/9 橋本 考古学と博物館
- (13) 7/16 鈴木英治 植物と博物学
- (14) 7/23 鈴木 熱帯の植物多様性
- (15) 7/30 鈴木 鹿児島の植物多様性

2. 博物館実習

本年度よりあらたに総合研究博物館では、博物館実習の学内実習の24時間を担当することとなった。実習受講生は法文学部10名、教育学部4名、理学部3名、農学部7名、水産学部1名であった。

4月18日、25日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の整理作業を行った。各学部学生がおよそ100点の標本を登録した。(本村)

5月30日、6月6日は鹿野が担当し、鹿児島大学総合研究博物館における地学系標本の収蔵、展示等の状況を見学した後、保管状況や標本展示の問題点について実習生と話し合った。また、収蔵標本の中から保存状況が悪い形之山産の植物化石標本を選んで、そのクリーニングと整理について体験した後、作業上の注意点と配慮すべき点を指導した。(鹿野)

6月14日、21日は鈴木・福元が担当し、始めに共通教育棟3号館講義室にて総合研究博物館所蔵の植物標本の概要について説明を行い、その後植物標本室に移動しグループに分けて、標本画像データのスキャン、押葉標本のデータ入力、未整理標本の台紙への貼付、防虫剤の補充を体験した。(福元)

7月4日、7月11日は橋本が担当した。法文学部・教育学部学生からなる7月4日は、橋本が文化財写真の基礎について解説した後、文化財プロカメラマン・牛嶋茂氏を招いて、実際の撮影について学んだ。7月11日は、植物標本をはさんでいた大正・昭和前期の稀少な古新聞の整理作業を行った。その清掃から分類、保存箱への収納までを実習した。(橋本)

3. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも免許状更新講習を実施している。

総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行い、2015年度は7月18日（土）に本村を講師として「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」を開講した。対象は小学校教諭と中学校・高等学校の理科教諭の合わせて9名。大航海時代から現代までの魚類コレクション構築の歴史を世界の博物館紹介を通して振り返るとともに、生物多様性を理解するための博物館コレクションの役割を解説した。また、標本の重要性を踏まえたうえで、魚類標本の最新の作製・保存方法を



博物館実習（本村）



博物館実習（橋本）

紹介し、実際に液浸標本を作製した。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、後日、受講者9名全員が履修認定された。

7月24日（金）には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は19名、小学校・中学校（社会）・高等学校（地歴）を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには拓本実習を含んでいる。（橋本）

4. インターンシップ

2015年5月19日～5月21日の3日間に鹿児島市立東谷山中学校（男子）生徒4名の職場体験を受け入れた。

5月19日は橋本が担当し、遺跡出土動物骨格標本の分類整理を行った。

5月20日は福元が担当し、標本採集から標本作製（昆虫）、標本ラベル作成、写真撮影、博物館の見学と周辺清掃等を体験した。

5月21日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の整理作業を行った。



インターンシップ

5 出版・広報

2015 度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 例年ニューズレターは 1 冊を特別展関連資料としているが、本年度の特別展は展示解説を別に作成したため、1 冊の刊行となった。

ニューズレター No.38 は、総合研究博物館スタッフおよび関連分野教員の研究紹介からなる 5 件の原稿を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全 14 ページ。

鹿野和彦・大塚裕之「特別公開「世界初、徳之島で発見されたアマミノクロウサギの化石」

上村 文「旧制鹿児島高等農林学校生による奄美群島農村調査」

本村浩之「マレーシアの無人島における魚類多様性調査」

平 瑞樹「鹿児島市の沖積地盤における液状化危険度の評価手法に関する研究」

橋本達也「諏訪考古資料コレクション 1 - 石器 -」

研究報告等 研究報告 No.8 として、橋本達也『大隅大崎 神領 10 号墳の研究 I』(全 36p) を刊行した。橋本が 2006 年から 2009 年まで実施した、曾於郡大崎町神領 10 号墳における発掘調査の概要報告と考察である。

またほかに特別展の項で詳しく触れたように、特別展の展示解説として、橋本達也編『成川式土器ってなんだ?—鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器—』(全 106 ページ) を刊行している。

年報 毎年 1 冊、前年度分の年報を刊行している。本年は、年報 No.14、2014 年度分を刊行した。

ポスター・チラシ 第 15 回特別展にあわせて、展示案内用の B 2 版ポスター・A 4 版チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。



研究報告 No.8 大隅大崎 神領 10 号墳の研究 I』

6 ボランティア活動

展示 第 15 回特別展「成川式土器ってなんだ?」の展示において、博物館ボランティアが展示設営、会場案内係を行った。会場係のボランティアには簡単な案内を行えるように展示内容に関する学習会を二度実施した。(橋本)

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では 2006 年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の 4 つの要素から成る(詳しくは「総合研究博物館ニューズレター No. 16」と総合研究博物館出版「魚類標本の作製と管理マニュアル」を参照)。本年度は本学水産学部から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約 10000 標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約 50000 件の画像データベースを作成した。

また、2016 年 2 月 10 日にボランティア学習会を開催し、広島大学グローバルキャリアデザインセンター・特別研究員の澤井悦郎氏に「広島大学とマンボウ研究の歴史」について講演をして頂いた。20 名の学生やボランティアが聴講した。(本村)



ボランティア学習会

7 鹿児島バーチャル博物館の構築

鹿児島大学総合研究博物館がホームページ上で公開してきた「フィールドミュージアム」の後継として Web 上で「フィールドガイド鹿児島」試作版を公開した。

8 標本管理活動

1. 植物標本室

今まで植物標本室を管理していた落合雪野 准教授が2014年度末で他大学に移籍し、その後の教員補充がないので、2015年度には鈴木英治が標本室の管理を兼務することとした。しかし館長業務や本務である理工学研究科の業務も多いので、標本庫の一般公開は原則として行わないこととしたが、1件の閲覧希望があり許可した。

一方、資料整理担当の非常勤職員として大西聡子が6月1日から勤務し、週に3日標本整理を手伝ってくれることとなった。そこで大西さんに、スキャナーによる植物標本の画像化、標本ラベルの情報を読み取ってコンピュータに入力する作業を担当してもらい、中断していた標本のデータベース化を進めることとした。この業務は2003年から2010年まで当時の非常勤職員の岩井雄次さんが行い、約20,800点の標本ラベル情報が入力されており、そのうち約5,400点は画像も作られていた。2015年度はデータベースソフトをFile MakerからAccessに変更し、A3スキャナーが1台であったものを2台にして作業を進めた結果、2015年度末でデータベースが約27,000点、そのうち画像付きが約26,700点になった。約10年前から大学のホームページで約5,000点の標本ラベルデータを公開していたが、そのシステムが古くなっていたので、学術情報基盤センターの森邦彦センター長に依頼して、新しい公開システム作成を進めてもらい、2016年度の公開に向けて準備した。また岩井氏が入力したデータは、古い標本では標本ラベル通りに旧地名、旧学名、和名も旧仮名遣いになっていたが、できるだけ現在の地名、現行の標準的な学名、新仮名遣いの標準的な和名に変更した。

教育活動としては、学芸員資格取得のための博物館実習を、6月13日9名、6月20日11名の学生が参加して、植物標本庫で植物標本の作製とデータベース化の実習を行った。また理学部地球環境科学科の学生1名が卒業研究として、標本庫のクスノキ科標本約1,600点を調べ、「鹿児島におけるクスノキ科の分類学的研究史」としてまとめた。(鈴木英治)

2. 脊椎動物標本の利用状況

2015年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する(学内での利用数は膨大であるため除く)。

貸出・利用年 月	分類 群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2015年4月	魚類	筋肉組織	2	National Sun Yat-Sen University, Taiwan	研究
2015年4月	魚類	液浸標本	2	千葉県立中央博物館	展示
2015年4月	魚類	標本画像	2	千葉県立中央博物館	展示
2015年4月	魚類	液浸標本	25	三重大学	研究
2015年5月	魚類	液浸標本	44	宮崎大学	研究
2015年5月	魚類	標本画像	68	宮崎大学	研究
2015年5月	魚類	標本画像	2	テレビ朝日	番組
2015年5月	魚類	標本画像	1058	学研	学研 Live 図鑑
2015年5月	魚類	標本画像	302	宮崎大学	研究
2015年5月	魚類	筋肉組織	1	宮崎大学	研究
2015年6月	魚類	筋肉組織	1	宮崎大学	研究
2015年8月	魚類	標本画像	1	日本テレビ	番組
2015年8月	魚類	標本画像	1	国立科学博物館	研究
2015年9月	魚類	筋肉組織	1	国立科学博物館	研究
2015年9月	魚類	液浸標本	24	西海区水産研究所	研究
2015年9月	魚類	液浸標本	2	National Museum of Natural History, Smithsonian Institute, USA	研究
2015年10月	魚類	筋肉組織	2	千葉県立中央博物館	研究
2015年10月	魚類	標本画像	1	(株) つり情報社	隔週刊つり情報掲載

2015年10月	魚類	筋肉組織	25	国立科学博物館	研究
2015年10月	魚類	筋肉組織	33	総合地球環境学研究所	研究
2015年11月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2015年11月	魚類	標本画像	8	広島大学	研究
2015年11月	魚類	液浸標本	5	三重大学	研究
2015年11月	魚類	筋肉組織	5	三重大学	研究
2015年11月	魚類	標本画像	15	三重大学	研究
2015年11月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2015年11月	魚類	標本画像	12	Museum of New Zealand Te Papa, New Zealand	研究
2015年12月	魚類	液浸標本	65	香川県	研究
2015年12月	魚類	液浸標本	39	高知大学	研究
2015年12月	魚類	標本画像	102	高知大学	研究
2015年12月	魚類	液浸標本	45	宮崎大学	研究
2015年12月	魚類	標本画像	130	宮崎大学	研究
2016年1月	魚類	標本画像	2	テレビ朝日	番組
2016年1月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2016年1月	魚類	標本画像	2	国立科学博物館	研究
2016年1月	魚類	標本画像	35	小学館	図鑑
2016年1月	魚類	筋肉組織	10	Ocean University of China, China	研究
2016年1月	魚類	液浸標本	30	西海区水産研究所	研究
2016年1月	魚類	標本画像	60	西海区水産研究所	研究
2016年2月	魚類	筋肉組織	6	Scripps Institution of Oceanography, USA	研究
2016年2月	魚類	液浸標本	1	Phuket Marine Biological Center, Thailand	研究
2016年2月	魚類	液浸標本	28	琉球大学	研究
2016年2月	魚類	標本画像	11	国立科学博物館	研究
2016年2月	魚類	液浸標本	14	国立科学博物館	研究
2016年2月	魚類	筋肉組織	11	国立科学博物館	研究
2016年2月	魚類	液浸標本	3	高知大学	研究
2016年2月	魚類	筋肉組織	2	国立科学博物館	研究
2016年3月	魚類	標本画像	55	Auckland, New Zealand	図鑑
2016年3月	魚類	標本画像	5	小学館	図鑑
2016年3月	魚類	液浸標本	1	California Academy of Sciences, USA	研究
2016年3月	魚類	液浸標本	27	京都大学	研究
2016年3月	魚類	筋肉組織	1	国立科学博物館	研究
2016年3月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2016年3月	魚類	筋肉組織	1	宮崎大学	研究
2016年3月	魚類	液浸標本	1	宮崎大学	研究
2016年3月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2016年3月	魚類	筋肉組織	1	国立科学博物館	研究
2016年3月	魚類	液浸標本	18	広島大学	研究
2016年3月	魚類	標本画像	64	広島大学	研究
2016年3月	魚類	筋肉組織	3	広島大学	研究

水産学部鈴木廣志氏より沖縄産ヒメアシハラガニモドキ1個体を、理工学研究科上野大輔氏より与論島沖産タコガニ（節足動物）8個体、コモチハナガササンゴ（刺胞動物）6コロニー、イトカケガイ科1個体、ほか多数を受入れた。ただちに標本に対して博物館登録番号を付し、登録、保管することとなった。

その他、徳之島産のアマミノクロウサギの歯と沖縄本島、今帰仁村大字呉我山赤木又産ヘビ類の脊椎骨化石などを特別に公開した。

3. その他の標本の利用

医歯学総合研究科免疫学研究室より、古いスライドプロジェクター、教育用映画フィルムなど教育史資料の寄贈があった。

土田充義 名誉教授から寄託を受けていた『旧福岡県庁建築図面』を、本来の所蔵者・杉野壮氏より正式に当館へ寄贈するとのご連絡をいただいた。

その他、下記のような利用があった。

地学資料関係

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
H27.8.27 ~ 28.3.31	増田層形之山層泥岩	2	国立科学博物館	研究利用
H27.12.4 ~ 28.2.28	種子島の地質図画像	1	鹿児島県立博物館	鹿児島県立博物館企画展「種子島の自然」において種子島の地質図のパネルを展示
H27.11.9	有孔虫画像	1	University of Calgary	研究利用
H28.3.10	ノコギリガザミ	1	瑞浪市化石博物館	研究利用

考古資料関係

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
H27.7.6	神領古墳出土須恵器・土師器	1	愛媛大学埋蔵文化財調査室	研究利用
H27.7.15	神領10号墳出土鉄鏃	1	高槻市立埋蔵文化財調査センター	調査・研究
H27.10.26 ~ 11.2	神領10号墳出土資料ほか	1	鹿児島県曾於郡大崎町	企画展「列島弧最南端に栄えた古墳文化」において展示、シンポジウム講演資料への掲載
H27.10.19 ~ 10.20	神領10号墳石棺蓋材	1	別府大学	調査・研究
H27.11.12 ~ 12.15	神領10号墳出土盾持人埴輪写真	1	有限会社海鳥社	出版物に掲載
H28.2.15	神領10号墳出土盾持人埴輪写真	1	西都原考古博物館	出版物に掲載

その他の利用

利用年月	標本・資料	点件数	貸出・利用先	目的
H27.4.1	西之表市形之山化石ほか	8	鹿児島県立博物館	企画展「かごしま化石発見伝」(3/9-5/26)に展示
H27.7.16	鹿児島市田中宇都地下壕写真	1	NPO法人かごしま案内人	機関誌「鹿児島案内人」に掲載のため
H27.7.21 ~ 8.1	公衆衛生資料	1	保健師同窓会	保健師同窓会総会(スライドショー)
H27.11.13 ~ 12.14	高等農林学校資料	1	鹿児島大学附属図書館	貴重書公開「旧制鹿児島高等農林学校の底力」に展示

9 2015年度 専任教員の活動業績

鹿野和彦 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」分担

共通教育科目「博物館資料論」分担

2) 専門教育

理学部専門科目「堆積学」

理学部専門科目「地層学実験」分担

理学部専門科目「地球環境科学Ⅱ」分担

理学部専門科目「理学論」分担

大学院理工学研究科専門科目「火山堆積システム特論」

大学院理工学研究科専門科目「火山岩相解析特論」

3) その他

理学部専門科目「堆積学」

理学部専門科目「地層学実験」分担

理学部専門科目「地球環境科学入門」分担

大学院理工学研究科専門科目「火山堆積システム特論」

大学院理工学研究科専門科目「火山岩相解析特論」

その他

「博物館実習」分担

(2) 研究活動

1) 著書

鹿野和彦, 化石が語る生物群集と環境の変遷, 鈴木英治・他(編) 生物多様性と保全—奄美群島を例に— (上), 鹿児島大学島嶼研ブックレット4, 北都書房, p. 59-61, 2016年3月

2) 論文(査読有)

なし

3) 論文(査読無)

なし

4) 学会発表

鹿野和彦, 新島軽石: 爆発的噴火に直接由来する水底密度流堆積物の堆積学的特徴, 日本地質学会第122年学術大会, 長野, 2015年9月

鹿野和彦・内村公大, 鹿児島湾奥, 新島(燃島)の完新統層序, 日本地質学会第122年学術大会, 長野, 2015年9月

鹿野和彦, 西南日本, 島根半島諸嶺における水冷火山弾の産状と噴火様式, 日本火山学会2015年度秋季大会, 富山, 2015年9月

中岡礼奈・鹿野和彦・鈴木桂子, 西南日本, 島根半島諸嶺における水冷火山弾の古地磁気, 日本火山学会2015年度秋季大会, 富山, 2015年9月

5) その他

鹿野和彦・大塚裕之, 特別公開「世界初、徳之島で発見されたアミノクロウサギの化石」, 鹿児島大学総合研究博物館 Newsletter 38号, p. 2-4, 2016年02月

(3) 外部資金

科学技術研究費助成事業「爆発的水底噴火モデルの構築」

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職、委員等

なし

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

産業技術総合研究所地質情報研究部門客員研究員

産業技術総合研究所との共同研究「鹿児島バーチャル博物館の構築」

3) 国外研究者の研究指導・共同研究等

なし

4) その他

なし

(5) 学内委員

国際島嶼教育研究センター 兼務教員

自然科学教育研究支援センター分析器施設部会委員

(6) 調査研究

2015年5月29日	垂水市新城麓海岸の地質調査
2015年8月7日～8月11日	島根半島の地質調査
2015年8月12日	鹿屋市下高隈太陽光発電所の地質調査
2015年9月16日	鹿屋市下高隈太陽光発電所の地質調査
2015年9月18日	鹿児島市新島の地質調査
2015年9月21日～9月24日	秋田県湯沢市蓮台寺及び院内の地質調査
2015年10月5日～10月9日	田沢湖の湖底調査
2015年10月18日～10月22日	島根半島の地質調査
2015年11月15日～11月20日	鳥取県米子市及び周辺地域の地質調査
2015年12月13日	霧島市国分川原の地質調査
2016年3月22日～3月24日	沖縄県今帰仁村呉我の地質調査

橋本達也 [准教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」担当

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

インターンシップ

(2) 研究活動

1) 著書

橋本達也 2015.9『成川式土器ってなんだ？—鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器—』鹿児島大学総合研究博物館（共著 中村直子・新里貴之・篠藤マリア・寒川朋枝・久住猛雄・辻秀人・広瀬和雄：1～24、43～45、53、65～66、96～102p 橋本執筆）

橋本達也 2016.2『大隅大崎 神領10号墳の研究I』鹿児島大学総合研究博物館（単著）全36p

2) 研究論文（査読なし）

橋本達也 2016.3「古墳時代中期の武装具体系とその意義」『歴博国際シンポジウム 古代日韓交渉の実態 予稿集』国立歴史民俗博物館 1～15p

橋本達也 2015.5「古墳時代中期における金銅装甲冑の再検討—徳島県小松島市田浦出土品の再発見と子安観音古墳—」『日本考古学協会第81回総会 研究発表要旨』日本考古学協会 54～55

橋本達也 2015.8「稲童古墳群からみた古墳時代の豊前の重要性」『国重要文化財指定記念シンポジウム稲童古墳群 出土品から見えた古代のゆくはし』行橋市・行橋市教育委員会 11～15p

橋本達也 2015.11「状態の良いな武具など大量の副葬品—宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓」『季刊考古学』第133号 雄山閣 91～92、95～96p

橋本達也 2015.12「X線CT調査による古墳時代甲冑研究の試行」『X線CTを用いた文化財の研究と活用』九州国立博物館10周年記念シンポジウム 九州国立博物館 70p

橋本達也 2016.2「諏訪考古資料コレクション1—石器—」『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter』No.38 鹿

3) 学会発表

橋本達也 2015.5.24 「古墳時代中期における金銅装甲冑の再検討—徳島県小松島市田浦出土品の再発見と子安観音古墳—」『日本考古学協会第81回総会』（帝京大学・八王子市）

橋本達也 2016.1.10 「パネルディスカッション 九州と長江文明」『東シナ海と稲作漁労・弥生文化』立命館大学グローバル・イノベーション研究機構「年編を軸とした環太平洋文明研究拠点」九州・佐賀シンポジウム（佐賀県生涯学習センターアバンセ・佐賀市）

橋本達也 2016.3.5 「古墳時代中期の武装具体系とその意義」『歴博国際シンポジウム 古代日韓交渉の実態』国立歴史民俗博物館（国立歴史民俗博物館講堂・佐倉市）

4) その他

橋本達也 2015.11 「教育と研究」・「教授 岡島銀次」・「鹿児島大学に残る「高農」」『旧制鹿児島高等農林学校の底力』鹿児島大学付属図書館 3・8・12～13 p（上村文との共著）

橋本達也 2016.3 「古墳時代前期甲冑研究の動向」『中四研だより』第37号 中四国前方後円墳研究会 26～27p

(3) 外部資金

競争的外部資金 研究代表者

科研費 基盤研究B（一般）2014年度～2017年度予定。「X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」。研究代表者。

研究分担者

科研費 基盤研究B. 2013年度～2016年度。「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」(研究代表者・上野祥史・国立歴史民俗博物館准教授ほか9名との共同研究) 研究分担者

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

下北方地下式横穴第5号出土遺物再整理専門委員会委員

2) 公開講座等講師

2015.8.1 行橋市教育委員会 国重要文化財指定記念シンポジウム「稲童古墳群出土品から見えた古代のゆくはし」コスメイト行橋文化ホール

2015.8.29 宮崎県立西都原考古博物館 特別展関連講座「墓制からみる南九州の古墳時代」西都原考古博物館1Fホール

2015.9.5 えびの市・小林市・高原町主催 宮崎県市町村間連携支援交付金交付事業 ボランティアガイド育成事業「えびの市島内139号地下式横穴墓調査概要報告」えびの市国際交流センター大研修室

2016.3.12 大崎町教育委員会社会教育課 郷土愛を育む講演会「古墳から読み解く大隅の古代群像—大崎町横瀬古墳・神領10号墳を中心に—」大崎町中央公民館二階大ホール

3) 調査指導・協力

曾於郡大崎町教育委員会 飯隈鷲塚19号・20号・21号・22号・23号地下式横穴墓群調査指導

（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 町田掘遺跡出土遺物発掘調査指導

宮崎市教育委員会 下北方5号地下式横穴墓整理報告指導

えびの市教育委員会 島内164号・165号地下式横穴墓発掘調査指導・協力

鳥取大学 倭文6号墳出土遺物調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

広報誌等編集専門部会

(6) 調査研究

2015年度通年：島内139号地下式横穴墓出土資料調査（えびの市教育委員会）

2015年5月・9月・11月・12月、2016年2月：東京国立博物館円照寺墓山1号墳出土資料調査

2015年11月22日～24日 大韓民国 金海国立博物館「甲冑、戦士の象徴」展見学および資料検討・研究会参加（金海市） 科研費基盤研究B「X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」

(7) 報道関係

寄稿

2015年11月14日「えびの市島内地下式横穴墓発掘1年 1500年前のタイムカプセル 上」宮崎日日新聞

2015年11月16日「えびの市島内地下式横穴墓発掘1年 英知集め遺物取り上げ 中」宮崎日日新聞

2015年11月19日「えびの市島内地下式横穴墓発掘1年 未確認の墓地下に多数 下」宮崎日日新聞

記事

2016年2月11日「明治時代出土の甲冑破片 金施した稀少な遺物」徳島新聞

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」(前期)

2) 専門教育

水産学部学芸員取得課程「博物館実習事前事後指導」(前期)

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ I」(前期)

水産学研究科専門科目「リーディングコース I」(前期)

水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AII」(前期)

水産学研究科専門科目「修士論文研究」(前期・後期)

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ II」(後期)

水産学研究科専門科目「リーディングコース II」(後期)

水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AI」(後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

3) その他

博物館資料論 (前期)

教員免許状更新講習 (前期)

博物館実習 (前期)

博物館実習事前事後指導 (前期)

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

Motomura, H., R. Ota, M. Meguro and S. Tashiro. 2015 (May). *Enneapterygius phoenicosoma*, a new species of triplefin (Tripterygiidae) from the western Pacific Ocean. *Species Diversity*, 20 (1): 1-12.

Koeda, K., S. N. Chiba and H. Motomura. 2015 (May). First Japanese specimen-based record of *Liopropoma tonstrinum* (Teleostei: Serranidae), from Minami-daito Island, Daito Islands, southern Japan. *Species Diversity*, 20 (1):19-22.

Matsunuma, M. and H. Motomura. 2015 (July). A new species of scorpionfish, *Ebosia vespertina* (Scorpaenidae: Pteroinae), from the southwestern Indian Ocean. *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-015-0479-2

Matsunuma, M. and H. Motomura. 2015 (Aug.). Redescriptions of *Pterois radiata* and *Pterois cincta* (Scorpaenidae: Pteroinae) with notes on geographic morphological variations in *P. radiata*. *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-015-0483-6

Suzuki, T., D. W. Greenfield and H. Motomura. 2015 (Sept.). Two new dwarfgobies (Teleostei: Gobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan: *Eviota flavipinnata* and *Eviota rubrimaculata*. *Zootaxa*, 4007 (3): 399-408.

吉田朋弘・本村浩之. 2015 (Aug.). 鹿児島県から得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類コンゴウテンジクダイ (新称) *Ostorhinchus fleurieu*. タクサ, 39: 17-24.

藤原恭司・高山真由美・桜井 雄・本村浩之. 2015 (Aug.). 日本におけるハタ科魚類キテンハタ *Epinephelus bleekeri* の記録と分布状況. タクサ, 39: 40-46.

Motomura, H., R. Causse, P. Béarez and S. S. Mishra. 2015 (Sept.). Redescription of the Indo-West Pacific scorpionfish (Scorpaenidae), *Neomerinthe erostris* (Alcock 1896), a senior synonym of *Scorpaena gibbifrons* Fowler 1938, *N. rotunda* Chen 1981, and *N. bathyperimensis* Zajonz & Klausewitz 2002. *Zootaxa*, 4021 (4): 529-540.

- Fukui, Y. and H. Motomura. 2015 (Nov.). A new species of deepwater wrasse (Labridae: *Terelabrus*) from the western Pacific Ocean. *Zootaxa*, 4040 (5): 559–568.
- 吉田朋弘・本村造之. 2015 (Nov.). 南日本から得られた北西太平洋初記録のテンジクダイ科魚類シキナミヤツトゲテンジクダイ (新称) *Neamia notula*. *魚類学雑誌*, 62 (2): 183–188.
- Hata, H., M. Takayama and H. Motomura. 2015 (Dec.). Distributional range extension of *Herklotsichthys quadrimaculatus* (Clupeiformes: Clupeidae) in southern Japan. *South Pacific Studies*, 36 (1): 39–48.
- Hata, H., M. Itou and H. Motomura. 2015 (Dec.). First Japanese record of the haemulid fish *Pomadasys kaakan* (Perciformes), from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Species Diversity*, 20 (2): 115–120.
- Motomura, H. and Y. Kanade. 2015 (Dec.). Review of the scorpionfish genus *Pteroidichthys* (Scorpaenidae), with descriptions of two new species. *Zootaxa*, 4057 (4): 490–510.
- Muto, N., U. B. Alama, H. Hata, A. M. T. Guzman, R. Cruz, A. Gaje, R. F. M. Traifalgar, R. Kakioka, H. Takeshima, H. Motomura, F. Muto, R. P. Babaran and S. Ishikawa. 2015 (Dec.). Genetic and morphological differences among the three species of the genus *Rastrelliger* (Perciformes: Scombridae). *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-015-0498-z
- 畑 晴陵・高山真由美・本村造之. 2015 (Dec.). 鹿児島県トカラ列島から得られたベラ科魚類ズナガアカボウ *Bodianus tanyokidus* の記録. *日本生物地理学会会報*, 70: 193–196.
- 小枝圭太・鐙木鋏一・本村造之. 2015 (Dec.). 薩南諸島広域から得られたハタンボ科ユメハタンボ *Pempheris oualensis* の記録. *日本生物地理学会会報*, 70: 275–282.
- Motomura, H., R. Causse and C. D. Struthers. 2016 (Jan.). Redescription of the Indo-Pacific scorpionfish (Scorpaenidae), *Scorpaenodes guamensis* (Quoy & Gaimard 1824), a senior synonym of seven nominal species. *Zootaxa*, 4067 (3): 345–360.
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2016 (Mar.). *Chelidoperca stella*, a new species of perchlet (Perciformes: Serranidae) from the Andaman Sea, eastern Indian Ocean. *Zootaxa*, 4092 (3): 388–400.
- 畑 晴陵・本村造之. 2016 (Mar.; dated as 2015). 薩南諸島から得られたハタ科魚類2種：アカハタモドキ *Epinephelus retouti* とヤマブキハタ *Saloptia powelli*. *鹿児島大学水産学部紀要*, 64: 1–9.
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2016 (Mar.; dated as 2015). The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University*, 64: 10–34.
- Hata, H. and H. Motomura. 2016 (Mar.). First specimen-based records of *Pristipomoides flavipinnis* (Perciformes: Lutjanidae) from the Tokara and Amami Islands, Japan. *South Pacific Studies*, 36 (2): 103–110.
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 松沼瑞樹・伊東正英・本村造之. 2015 (May). 鹿児島県薩摩半島沖から得られたウツボ科ミナミミゾレウツボの記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 17–21.
- 畑 晴陵・日比野友亮・伊東正英・本村造之. 2015 (May). 宇治群島宇治島と奄美群島喜界島から得られたウミヘビ科魚類モヨウモンガラドオシ *Myrichthys maculosus*. *Nature of Kagoshima*, 41: 23–29.
- 小枝圭太・畑 晴陵・本村造之. 2015 (May). 鹿児島県内之浦湾から得られたユキフリソデウオ *Zu cristatus*. *Nature of Kagoshima*, 41: 31–35.
- 田代郷国・本村造之. 2015 (May). 屋久島から得られたヨウジウオ科魚類ヒメトゲウミヤッコ *Halicampus spinostris* の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 37–39.
- 岩坪洸樹・山口 実・畑 晴陵・本村造之. 2015 (May). 屋久島から得られたウスメバル *Sebastes thompsoni* の南限記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 41–45.
- 小枝圭太・本村造之. 2015 (May). 種子島とトカラ列島から得られたハナハタ *Cephalopholis aurantia* の北限記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 47–52.
- 吉田朋弘・本村造之. 2015 (May). 徳之島および沖縄島から得られたハタ科魚類ジャノメヌノサラシ *Grammistops ocellatus* Schultz, 1953. *Nature of Kagoshima*, 41: 53–55.
- 吉田朋弘・本村造之. 2015 (May). 屋久島で採集された3種のテンジクダイ科魚類. *Nature of Kagoshima*, 41: 57–60.
- 吉田朋弘・萩原清司・本村造之. 2015 (May). 奄美大島から得られたシロヘリテンジクダイ *Jaydia albomarginata*. *Nature of Kagoshima*, 41: 61–64.
- 吉田朋弘・本村造之. 2015 (May). 奄美群島与論島から得られたテンジクダイ科魚類2種. *Nature of Kagoshima*, 41: 65–68.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村造之. 2015 (May). トカラ列島から得られたアジ科魚類カッポレ *Caranx lugubris*. *Nature of Kagoshima*, 41: 69–72.

- 畑 晴陵・伊東正英・山田守彦・高山真由美・本村浩之. 2015 (May). 標本に基づく鹿児島県のシマガツオ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 41: 73-93.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2015 (May). トカラ列島から得られたフエダイ科魚類オオクチハマダイ *Etelis radiosus*. *Nature of Kagoshima*, 41: 95-99.
- ジョン ビヨル・Rangsiwut Keawsang・本村浩之. 2015 (May). フエダイ科魚類キビレフエダイ *Lipocheilus carnolabrum* の標本に基づく鹿児島県島嶼域からの記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 101-105.
- 小枝圭太・本村浩之. 2015 (May). チカメタカサゴ *Pinjalo pinjalo* の日本における成魚 2 個体目の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 107-110.
- 小枝圭太・前川隆則・本村浩之. 2015 (May). 奄美大島から得られたシマチビキ *Pristipomoides zonatus*. *Nature of Kagoshima*, 41: 111-114.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島県本土初記録のイサキ科魚類ホシミゾイサキ *Pomadasys argenteus*. *Nature of Kagoshima*, 41: 115-121.
- 畑 晴陵・伊東正英・高山真由美・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島県北部から得られたタイ科魚類タイワンダイ *Argyrops bleekeri* の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 123-127.
- 畑 晴陵・小枝圭太・本村浩之. 2015 (May). 奄美大島から得られたフエフキダイ科魚類ミンサーフエフキ *Lethrinus ravus*. *Nature of Kagoshima*, 41: 129-132.
- 田代郷国・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島県初記録のヒメジ科魚類ミナベヒメジ *Parupeneus biaculeatus* およびホウライヒメジ *Parupeneus ciliatus* との形態学的比較. *Nature of Kagoshima*, 41: 133-137.
- 小枝圭太・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島県本土と薩南諸島 3 島から得られたリュウキュウハタンポ *Pempheris adusta* の記録と生物学的知見. *Nature of Kagoshima*, 41: 139-144.
- 上城拓也・伊東正英・本村浩之. 2015 (May). スダレダイ科ウダチスダレダイ *Drepane punctata* の日本からの確かな記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 145-147.
- 松沼瑞樹・桜井 雄・本村浩之. 2015 (May). 琉球列島から得られたニザダイ科魚類シノビテングハギ *Naso tergus* の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 149-152.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2015 (May). 標本に基づくマカジキ科魚類フウライカジキ *Tetrapturus angustirostris* の琉球列島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 153-156.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島湾から得られたタチウオ科魚類ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatum*. *Nature of Kagoshima*, 41: 157-160.
- 畑 晴陵・伊東正英・楠木紘一・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島県北部から得られたサバ科魚類グルクマ *Rastrelliger kanagurta* の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 161-166.
- 畑 晴陵・岩坪洸樹・本村浩之. 2015 (May). サバ科魚類ヒラサワラ *Scomberomorus koreanus* の日本沿岸からの 2 番目の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 167-170.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2015 (May). 薩南諸島広域から得られたヒシダイ科魚類ヒシダイ *Antigonia capros*. *Nature of Kagoshima*, 41: 171-175.
- 福井美乃・松沼瑞樹・本村浩之. 2015 (May). 鹿児島県黒島沖の大陸斜面域から得られた底生魚類およびギンザメ科アカギンザメ *Hydrolagus mitsukurii* の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 177-186.
- 田代郷国・本村浩之. 2015 (May). ヘビギンボ科クロマスク属 *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) に適用すべき標準和名. *Nature of Kagoshima*, 41: 307-309.

3) 著書

- 本村浩之 (監修). 2015 (July). 学研の図鑑 LIVE・魚. 学研教育出版, 東京. 248 pp.
- 本村浩之 (監修). 2015 (Aug). 学研の図鑑 LIVE・危険生物. 学研教育出版, 東京. 203 pp.
- Struthers, C. D. and H. Motomura. 2015 (Nov.). Family Sebastidae. Seaperches, pp. 1078-1082. In Robers, C. D., A. L. Stewart and C. D. Struthers (eds.) *The fishes of New Zealand*. Te Papa Press, Wellington. 4 vols.
- Motomura, H. and C. D. Struthers. 2015 (Nov.). Family Setarchidae. Deepwater scorpionfishes, pp. 1083-1085; Family Neosebastidae. Gurnard perches, pp. 1086-1087; Family Scorpaenidae. Scorpionfishes and lionfishes, pp. 1088-1100. In Robers, C. D., A. L. Stewart and C. D. Struthers (eds.) *The fishes of New Zealand*. Te Papa Press, Wellington. 4 vols.
- 本村浩之 (監修). 2015 (Dec.). 第 4 章 海の光る生き物②—魚類—. Pp. 73-95. 学研の図鑑 LITE 深海や暗闇できらめく奇跡の世界を探訪! 光る生き物. 株式会社学研プラス, 東京.
- 小林 忠・小宮輝之・湯浅浩史・佐々木猛智・本村浩之・秋篠宮文仁. 2016 (Jan.). 若沖の描いた生き物たち. 株式会社学研プラス, 東京. 168 pp.
- Motomura, H. 2016 (Mar.). The ichthyofauna of Yoron-jima Island in the southern extremity of the Amami Islands, Japan, including comparisons with similar nearby regions. Pp. 71-78. In Kawai, K., R. Terada and S. Kuwamura (eds.) *The Amami Islands: Culture, Society, Industry and Nature*. Hokuto Shobou, Kyoto.

本村浩之. 2016 (Mar.). 薩南諸島における魚類多様性研究の最前線. Pp. 261-269. 鹿児島大学生物多様性研究会(編), 奄美群島の生物多様性~研究最前線からの報告. 南方新社, 鹿児島.

本村浩之. 2016 (Mar.). 世界有数の魚類多様性 (The Amami Islands: one of the highest fish species diversity in the world). Pp. 26-29. 鈴木英治・桑原季雄・平 瑞樹・山本智子・坂巻祥孝・河合 溪(編), 生物多様性と保全一奄美群島を例に一(下)水圏・人と自然編. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センターブックレット4. 北斗書房, 京都.

4) その他の出版物

Motomura, H., M. Matsunuma, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, N. Muto, O. Muda, V. Vilasri, S. Arnupapboon, K. Phuttharaksa, A. Gaje, R. Cruz, A. Guzman, U. Alama, R. Traifalgar, R. Babaran, F. Muto and S. Ishikawa. 2015 (Apr.). Collecting specimens and building museum collections. Pp. 65-69. In "Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia" Project (ed.) Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia. Project Interim Report. The Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.

Traifalgar, R., N. Muto, R. Kakioka, A. Gaje, R. Cruz, A. Guzman, U. Alama, H. Motomura, F. Muto, R. Babaran and S. Ishikawa. 2015 (Apr.). Development of DNA barcode for fishes in Panay Island, Philippines. Pp. 70-77. In "Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia" Project (ed.) Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia. Project Interim Report. The Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.

Muto, N., R. Kakioka, O. Muda, S. Arnupapboon, B. Yangphonkhan, K. Phuttharaksa, A. Gaje, R. Cruz, A. Guzman, U. Alama, R. Traifalgar, H. Takeshima, H. Motomura, F. Muto, R. Babaran and S. Ishikawa. 2015 (Apr.). Genetic population structure and phylogeography of commercially important coastal fishes in the South China Sea. Pp. 78-85. In "Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia" Project (ed.) Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia. Project Interim Report. The Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.

本村浩之. 2016 (Feb.). マレーシアの無人島における魚類多様性調査. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, (36): 6-9.

吉田朋弘・畑 晴陵・小枝圭太・ジョン ビヨル・本村浩之. 2016 (Mar.). 奄美大島の魚類相調査. 南太平洋海域調査研究報告, 57: 89-90.

5) 学会・シンポジウム等発表

本村浩之. 2015 (10 May). 海の中の境界線—三島の魚たち—. 鹿児島県立博物館特別企画展「時をきざむ三島の自然」連携講演会, 鹿児島県立博物館, 鹿児島市.

築瀬 梓・児玉谷仁・神崎 亮・本村浩之・富安卓滋. 2015 (23-24 May). 鹿児島湾における魚体中水銀濃度. 第75回日本分析化学討論会. 山梨大学甲府キャンパス, 甲府市.

本村浩之. 2015 (31 Aug.). 鹿児島大学総合研究博物館における魚類標本データベースの構築. 第25回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会. 国立科学博物館, 上野.

福井美乃・本村浩之. 2015 (5-6 Sept.). ベラ科 *Terelabrus* 属の分類学的再検討. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

吉田朋弘・本村浩之. 2015 (5-6 Sept.). アンダマン海から得られたハタ科サクラダイ属の1未記載種. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

吉浦 藍・Ricardo Babaran・本村浩之. 2015 (5-6 Sept.). フィリピンから得られたトラギス科トラギス属の2未記載種. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

松沼瑞樹・本村浩之. 2015 (5-6 Sept.). フサカサゴ科キミオコゼ類似種群の分類学的再検討およびキミオコゼの地理的変異. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

畑 晴陵・本村浩之. 2015 (5-6 Sept.). カタクチイワシ科ミズルルに適用すべき学名およびインドネシアから得られた1未記載種. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

小枝圭太・高山真由美・鮫島翔太・今井秀行・立原一憲・本村浩之. 2015 (5-6 Sept.). ヒメジ科ウミヒゴイ属オオスジヒメジにみられる2型および種子島から得られた日本初記録のウミヒゴイ属魚類. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

松浦啓一・瀬能 宏・本村浩之・遠藤広光・栗岩 薫・千葉 悟. 2015 (5-6 Sept.). 南日本の沿岸性魚類の戦略的調査と魚類データベースが展望する動物地理学の新たな地平. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

柿岡 諒・武藤望生・武島弘彦・Osman Muda・Sukchai Arnupapboon・Kamolrat Phuttharaksa・Nguyen Van Quan・Arnold Gaje・Ramon Cruz・Ulysses Alama・Armi Guzman・Rex Traifalgar・Ricardo Babaran・本村浩之・武藤文人・石川智士. 2015 (5-6 Sept.). 南シナ海におけるメガネタマガシラの遺伝的集団構造. 2015年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.

- 武藤望生・Ulysses Alama・畑 晴陵・武島弘彦・柿岡 諒・Arnold Gaje・Ramon Cruz・Armi Guzman・Rex Traifalgar・Ricardo Babaran・本村浩之・武藤文人・石川智士. 2015 (5-6 Sept.). グルクマ属魚類 3 種の遺伝的・形態的差異. 2015 年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.
- 中江雅典・渡辺勝敏・本村浩之・鹿野雄一・千葉 悟・大橋慎平. 2015 (5-6 Sept.). 日本魚類学会 ABS 対策チームの立ち上げおよび活動について. 2015 年度日本魚類学会年会, 近畿大学, 奈良キャンパス.
- Motomura, H. 2015 (2 Oct.). The ichthyofaunal surveys in the Ryukyu Islands, southern Japan. The Scientific Expedition of Ichthyofauna Surrounding Bidong Island - Workshop on Fish Taxonomy at Bidong Island. School of Fisheries and Aquaculture Sciences, Universiti Malaysia Terengganu at Bidong Island.
- Motomura, H. 2015 (4 Oct.). The Bidong Island ichthyofauna survey with scuba diving. The Scientific Expedition of Ichthyofauna Surrounding Bidong Island - Expedition Findings. Primula Hotel, Kuala Terengganu, Malaysia.
- 本村浩之. 2015 (28 Nov.). 島嶼域における魚類の種多様性と分布特性. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター シンポジウム「島の魚と私たちのこれから, 鹿児島県島嶼域における魚類の多様性と持続的な利用へ向けた取り組み」. 鹿児島大学総合教育研究棟, 鹿児島市.
- 本村浩之. 2016 (9 Jan.). 東南アジアにおける魚類多様性研究. 第 15 回日本分類学会連合公開シンポジウム「東南アジアにおける生物多様性研究最前線 ~ 現在、そして未来 ~」. 国立科学博物館 (上野本館) 2 階講堂, 上野.
- 本村浩之. 2016 (14 Feb.). 鹿児島島の魚類種多様性と新たな生物地理境界線の発見. 第 27 回魚類生態研究会. 鹿児島大学水産学部, 鹿児島市.
- 福井美乃・本村浩之. 2016 (14 Feb.). ベラ科ミヤビベラ属の 2 未記載種. 第 27 回魚類生態研究会. 鹿児島大学水産学部, 鹿児島市.
- Koeda, K., M. A. Ghaffar, A. Arshad, S. Y. Giat, S. Tafzilmeriam b. S. A. K., A. b. M. A. Ramasamy, Y. S. Ibrahim, M. Nakae, N. M., A. Yoshiura, R. Matsuo, S. Kimura and H. Motomura. 2016 (24-26 Feb.). Fish species diversity around Bidong Island off Terengganu, Peninsular Malaysia. Asian CORE-COMSEA Seminar on Coastal Ecosystems in Southeast Asia. Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, Kashiwa.
- Peristiwady, T., S. Kimura, K. Matsuura, H. Motomura, W. Koagouw, P. C. Makatipu, W. N. Satrioajie and K. Wibowo. 2016 (24-26 Feb.). Recent new records of anthiine fishes (family Serranidae) from North Sulawesi. Asian CORE-COMSEA Seminar on Coastal Ecosystems in Southeast Asia. Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, Kashiwa.
- Kimura, S., N. V. Quan, H. Motomura, M. Nakae, H. Imamura, N. Muto, N. D. The, P. V. Chien, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, H. Suzuki, S. Tashiro and K. Matsuura. 2016 (24-26 Feb.). Reef and shore fishes of Ha Long Bay, a World Heritage site in northern Vietnam. Asian CORE-COMSEA Seminar on Coastal Ecosystems in Southeast Asia. Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, Kashiwa.
- Ghaffar, M. A., A. Arshad, S. Kimura, H. Imamura and H. Motomura. 2016 (24-26 Feb.). Species composition of ichthyofaunal on the seagrasses meadow of Merambong shoals. Asian CORE-COMSEA Seminar on Coastal Ecosystems in Southeast Asia. Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, Kashiwa.

(3) 外部資金

競争的外部資金 (代表)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「汎世界分類群マツバラカサゴ属 (フサカサゴ科) の分類・生態学的研究」
フランス国立自然史博物館 客員研究員助成金 「南太平洋から採集されたフサカサゴ科魚類の分類学的研究」

競争的外部資金 (分担・連携)

日本学術振興会 アジア研究教育拠点事業 「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A) 「亜熱帯島嶼生態系における水陸境界域の生物多様性保全の研究」

総合地球環境学研究所 一般共同研究 「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上」

国立科学博物館 「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」

文部科学省 特別経費 - 地域貢献機能の充実 - 「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」

鹿児島大学 COC 事業 「島嶼と火山を有する鹿児島島の地域再生プログラム」平成 27 年度地域志向教育研究経費 「甌島列島における魚類相の解明」

(4) 社会貢献・学外活動

日本魚類学会 評議員

日本魚類学会 学会賞選考委員

日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員

日本動物分類学会 英文誌編集委員長
日本生物地理学会 評議員
国際自然保護連合 種の保存委員 (珊瑚礁性魚類分野)
オーストラリア博物館客員研究員
総合地球環境学研究所共同研究員
インド・太平洋魚類国際会議 運営委員会 委員
マレーシア・トレンガヌ大学人事委員会 委員
鹿児島県自然環境保全協会 理事
鹿児島県純心女子短期大学非常勤講師
かごしま水族館 評議員
文部科学省科学技術政策研究所 専門調査員

(5) 学内委員等

企画・評価委員会 委員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 交流企画部会委員
国際島嶼教育研究センター 9分野 島嶼適応領域 島嶼教育分野担当
薬品管理システムの運用に関する検討専門委員会 委員
大学院連合農学研究科入試委員会 委員

(6) 主な調査研究

2015年4月21～23日：宇治群島
2015年6月1～7月8日：フランス国立自然史博物館・マルセイユ
2015年7月12～18日：ベトナム (ニャチャン市・ハイフォン市・ハロン市)
2015年7月20～27日：奄美大島
2015年8月25～29日：口之島
2015年9月27日～10月6日：マレーシア (クアラトレンガヌ市)
2015年10月15～18日：甌島
2015年10月21～23日：国立科学博物館
2015年11月7～15日：フィリピン・パナイ島
2015年11月24～27日：徳之島
2015年3月2～7日：高知大学

(7) 報道関係

2015年4月17日, 薩摩硫黄島～地球の物語を刻む島～. NHK 鹿児島, かがスピ!, 19:30-19:55 (硫黄島の魚類について)
2015年4月19日, クイズ! それマジ!? ニッポン. フジテレビ, 19:00-20:54 (ブダイとサンゴの関係)
2015年5月16日, 怪魚ハンターが行く! オーストラリア篇. NHK BSプレミアム, 21:00-23:00 (キングスレッドフィンの生態について)
2015年5月28日, 鹿児島の身近な魚 実は新種 アカヘビギンボ 鹿大・本村教授, 国際誌に発表. 南日本新聞
2015年7月30日, いきなり! 黄金伝説. テレビ朝日, 19:00-19:54 (魚類の同定と解説)
2015年8月28日, 未知の魚続々 新種の宝庫 世界有数の魚類多様性. 生物多様性と保全 奄美群島を例に⑰. 南海日日新聞
2015年9月3日, いきなり! 黄金伝説. テレビ朝日, 19:00-19:54 (魚類の同定と解説)
2015年9月13日, 誰だって波瀾爆笑. 日本テレビ, 9:55-10:55
2015年11月18日, 新種の魚は”みやび”な泳ぎ キスゲミヤビベラ 鹿大院・福井さん発表. 南日本新聞
2015年11月29日, 国内初記録の魚に和名 シキナミヤツトゲテンジクダイ 鹿大院生・吉田さん. 南日本新聞
2015年12月13日, かも 新種のベラを論文発表した鹿大大学院生 福井美乃さん. 南日本新聞
2015年12月16日, 笠沙沖に「金色イサキ」国内初確認 「カガヤキミゾイサキ」鹿大大学院生、畑さん命名. 南日本新聞
2015年12月17日, いきなり! 黄金伝説. 2時間スペシャル. テレビ朝日, 19:00-20:54 (魚類の同定と解説)
2016年1月21日, いきなり! 黄金伝説. テレビ朝日, 19:00-20:00 (魚類の同定と解説)
2016年1月20日, 福井美乃, まだ夢の途中. まちひと元気 Vol. 26. 広報いちき串木野, 123: 2-3.
2016年2月12日, ズバっと! 鹿児島 データ放送探検隊. MBC, 10:25-10:30

2016年3月5日、いきなり!黄金伝説。春の6時間SP!! お猿だらけの無人島は観光地化出来るのか。テレビ朝日、9:55-16:00 (魚類の同定と解説)

福元しげ子 [助手]

(1) 教育活動

その他

鹿児島大学法文学部開講の「博物館実習」の不足分を補う実習(2日)の補助を行った。

(2) 研究活動

1) 研究論文(査読無)

福元しげ子・山根正気・平 瑞樹. 2015 (May). 奄美群島与路島のアリ. Nature of Kagoshima, 42: 461-464.

2) 著書

福元しげ子. 2016 (Mar). 薩南諸島北部のアリ相. Pp. 133-142. 鹿児島大学生物多様性研究会(編), 奄美群島の生物多様~研究最前線からの報告. 南方新社, 鹿児島.

福元しげ子. 2016 (Mar). 驚くべきアリの多様性. Pp. 53-55. 生物多様性と保全—奄美群島を例に—(上)陸上植物・陸上動物・基礎編. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センターブックレット5. 北斗書房, 京都.

3) その他の出版物

福元しげ子. 2016 (Mar). 奄美群島のアリ類の調査および北琉球における放浪性アリ類の調査. 南太平洋海域調査研究報告, 57: 33-35.

福元しげ子. 2015 (May). Information 鹿児島大学総合研究博物館. Nature of Kagoshima 42 : 547-550.

4) 学会シンポジウム等発表

Fukumoto, S. and S. Yamane. 2015 (23-26 Oct.). Ant community on the Campus of Kagoshima University, Japan. 10th ANet International Conference 2015, University of Kelaniya Sri Lanka.

5) 調査研究

2015年4月28日~29日: 硫黄島における外来アリのモニタリング

2015年7月1日~7月2日: 奄美群島与路島のアリ相調査

2015年8月4日~5日: 硫黄島における外来アリのモニタリング

2015年12月22日: 大島郡龍郷町のアリ類サンプリング調査

2015年12月24日~25日: 奄美群島加計呂麻島のアリ類サンプリング調査

6) 報道関係

90種以上が生息 アリを通し生態系を見る 生物多様性と保全 奄美群島を例に㊟. 南海日日新聞, 2015年11月20日

鹿兒島大学総合研究博物館 第15回 特別展

成川式土器

— 鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器 —

なんだ？

期間：2015年9月30日（水）
～10月27日（火）
休館日 10月4日・11日・12日・18日・25日
時間：10：00～17：00
場所：鹿兒島大学 郡元キャンパス
中央図書館
ギャラリー“アトリウム”
入場無料 図書館へ入るには本人確認が必要となります。
身分証明書、運転免許証などをご持参ください

関連企画 第29回 市民講座
2015年10月24日（土）13:30～16:00
鹿兒島大学郡元キャンパス 共通教育3号館311号室
成川式土器から考える古代のかごしま
久住猛雄（福岡市文化財部） 橋本達也（鹿兒島大学総合研究博物館）

鹿兒島大学総合研究博物館
890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-30 099-285-8141（博物館代表）
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>



鹿児島大学 総合博物館 第28回 市民講座

自然科学とメディアをつなぐ ～恐竜から人体まで～

講師：坂元 志歩 (サイエンスライター・番組リサーチャー)
日時：5月23日(土) 13:00-14:30
場所：鹿児島大学 郡元キャンパス 総合教育研究棟 102号室
入場無料・事前申込み不要



科学雑誌ニュートンからNHKの科学番組まで10年以上に渡りメディアを通して自然科学を紹介してきた講師が、好奇心を語ります

■ 問い合わせ先
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学総合博物館
Tel: 099-285-8141
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>
恐竜イラスト © 月本佳代 / NHK プロモーション

鹿児島大学総合研究博物館 第15回公開講座

火山はなぜ噴火するのか？ —日本列島に暮らすということ—

日時：2015年6月6日(土) 13:30-15:00
会場：鹿児島大学郡元キャンパス
共通教育棟 321 講義室 (定員 214名)

マグマ学の泰斗、
巽 好幸 (神戸大学大学院教授) が語る
「巨大カルデラ噴火とこれに向き合う心構え」

日本は世界一の火山大国です。
私たちは、なぜこの列島にこれほどまでに火山が密集し、そして噴火が起こるのかを理解することが必要です。また、私たちが火山から数多くの恩恵を受けていることも忘れてはなりません。その上で、ひとたび起これば日本喪失を招く破局的噴火への対応を強(したた)かに模索しなければなりません。

予約無しでどなたでも無料で聴講できます。
車でお越しの方は中央図書館側のゲートで担当者にお声がけ下さい。ゲートを開けます。
問合せ 鹿児島大学総合研究博物館 電話 099-285-8141
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

鹿児島大学総合研究博物館
第15回自然体験ツアー

照葉の森の植物観察会 参加者募集

鹿児島市郊外の寺山で、新緑の木や草の観察を行います。
検索表を使いながら、初心者向けに植物観察のポイントを解説します。

日時 2015年4月19日(日) 9時開始-15時頃解散
案内者 鈴木英治(館長)ほか博物館スタッフ
集合場所 鹿児島市吉野町寺山(下図参照)
鹿児島大学教育学部付属寺山自然教育研究施設(入口内に駐車場あり)
参加費 100円(保険料など) 当日徴収
応募方法 参加希望の方は、電子メール、FAX またはハガキで氏名・年齢、電話番号、FAXまたはメールアドレスをご記入の上、下記へお申し込み下さい。
電子メール: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp
電話: 099-285-8141 FAX: 099-285-7267
住所: 〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30 鹿児島大学総合研究博物館

応募締切 2015年4月10日(金) 16:00 必着
募集定員 20名(受付順)
当日の持ち物 弁当・飲み物、雨具、ハイキングのできる服装(あればルーペ、カメラ)

注意事項: 少雨決行。大雨の場合は延期(メール等で連絡します)。
※4月15日(水) 13:00までに当館から連絡のない場合にはご一報下さい。
※個人情報、この企画の目的以外には使用いたしません。
※迷惑メール対策のためにスマートフォンや携帯電話のメール設定でドメイン指定受信をされている方はメールが届かないことがあります。



鹿児島市 中央駅、鹿児島大、吉野、寺山、桜島、鹿児島市出地、鹿児島大学教育学部 寺山自然教育研究施設 入口、寺山公園 展望台

鹿児島大学総合研究博物館

初冬の奄美で森の木を見る会 参加者募集

第2回 奄美の生物多様性観察会
鹿児島大学 島しょ研 奄美分室・総合研究博物館 主催
奄美市教育委員会共催

ちょっと寒くなった12月の奄美は、ハフもおどなく山歩きが快適です。スマートフォンなどに入れた植物図鑑を片手に、山の植物をじっくりと見つめてみませんか？

場所: 奄美自然観察の森 (龍郷町)

日時: 2015年12月23日
9時半 受付開始
10時 簡単なレクチャー
10時半~12時半頃 植物観察

<http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/home/PlantsSeminar/>

(雨天時 約1時間の講演会 亜熱帯から熱帯の植物紹介)
ガイド: 鈴木英治(鹿大博物館) 鶴川信(農学部)
福元しげ子(鹿大博物館) 鈴木真理子(奄美分室)他

持ち物: 簡単なハイキングのできる服装・雨具
筆記具 ボード(A4用紙の下敷きになる硬い板)
右の図鑑を入れたスマホかタブレット

募集人員 40名(先着順) 費用: 無料
申し込み方法: 参加希望の方は、電子メールまたは電話で氏名・年齢、メールアドレスまたは電話番号をご記入の上、下記宛先までお申し込み下さい。
申し込み先: 鹿児島大学 奄美分室 amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp
TEL: 0997-69-4852
(受け付けられた方には、1~2日中には連絡いたします。)
(担当: 福澤・鈴木真理子・藤井)
申込み締切: 2015年12月16日



花一眼差しのあいだ

小枝 繁昭

2015年4月10日(金) - 4月30日(木)

鹿児島大学総合研究博物館

初公開
特別公開

与謝野鉄幹・与謝野晶子の
直筆短歌

—旧制鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名録—

昭和四年 与謝野鉄幹・晶子のみた
ヒビスススまた伊
桑花めあまろで
栄世の園をえり
こころの筆

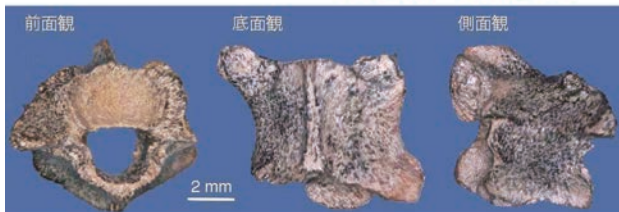
玉利喜造の拓いた植物試験場

期間：2015年11月14日～12月12日
場所：鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室
入場無料

鹿児島大学総合研究博物館

特別公開 1月27日(水)～4月9日(土)

沖縄本島で
150万年前の地層から発見された
琉球列島最古のハブ属の化石



鹿児島大学総合研究博物館

特別公開 8月6日(木)～9月9日(水)

世界初、徳之島で発見された
アマミノクロウサギの化石

鹿児島県 天城町

小島

伊仙町

3 km

鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum
No.15
2015

2017. 03. 30

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan